○シヤクチリンバ（原　寛）

これは牧野博士が頭註國譯本草綱目第6册382頁（昭和8年）で「赤地利」を **Fagopyrum cymosum** Meissner として與へられた和名である。この植物は近年我國でも處々に栽培されて居るが，往々ダッタンソバと誤稱されて居る。併しダッタンソバとは全く異るもので却つて普通のソバに似た性質がある。根莖が太く多年生でそれから毎年莖を簇生し枝を分つ點は近似種と著しく違つて居り，私はシュクコンソバの和名を用意して見た。葉は略三角形をなし，花莖は長く先端2—3岐して分枝は外へ彎曲して偏側性の穗をなして花を着け，花被は白色長さ3 mm 餘，小花梗には中央下に明かな關節があり，瘦果は花被の約倍長になり長さ7—8(9)mmに達し，三稜形で角は凡て鋭稜をなし，面は廣卵狀正三角形で横徑6—7 mm 初め少しく光澤があり完熟すれば栗褐色となる。*F. cymosum* はネパール產のものから記載され，我國で栽培されて居るものより毛が多いが同一種と考へてよいであらう。分布は印度北部の高地から西藏，中國中南部に及び佛印東京からも報告がある。歐洲では19世紀初期に輸入，觀賞用として栽培されて居た。我國へは中國から種子を入れたものが多い。小石川植物園では1925年にDarjeeling から種子を輸入して栽培した事があり，又現在上海，呉山から藤田直市教授が種子を持歸られたものも栽培されて居る。「赤地利」は唐本草に初めて出で，本草綱目草部18卷に圖もあるがこれは疑しく，植物名實圖考卷22にある圖は本種と考へられる。Henry は蕎當歸の漢名を當てて居るが明かでない。

眞のダッタンソバ（ニガソバ，苦蕎麥）(**F. tataricum** (L.) Gaertner) は一年生植物で莖は丈高く概ね單一で綠色，花穗も通常分岐せず稍疎で，花は小さく綠色を帶び長さ2 mm 許，瘦果は花被の3倍位で長さ5—6 mm，3條の縱溝があり，角は圓く往々波狀凹凸があつて中部に瘤狀突起を有するものがあり，上部のみ鋭稜をなし，面は略卵形で光澤がない。イヌソバ (*f. rotundatum* Babington) は瘦果の角に凹凸のない型であり，カラフトニガソバ (*F. suffruticosum* Fr. Schmidt) は多年生と云はれて居るが疑はしくダッタンソバの一形と思はれる。內地でも稀に農作物種子に混じて生える事があるらしく，牧野博士は上野戸倉でこれを得た事を本誌8卷(154)頁(昭和7年)に報ぜられて居る。ソバに比して品質劣り少しく苦味があるが，耐寒性強くソバよりも一層瘠地でよく生育する。

序でにソバの性質を附言すれば，一年生草本で莖は通常紅色を帶び，花序は花を密簇し，花被は白色又は淡紅を帶び長さ3—4 mm，瘦果は花被の略倍長で長さ5—7 mm，角は凡て鋭稜をなし面は卵形先端下で僅かに縊れ，初めは光澤がある。學名は **F. sagittatum** Gilibert が正しく，多くの栽培品種が知られて居る。

終に色々と御助言下さつた久内清孝，松崎直枝兩氏に深謝します。